

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
自分が好き みんなが好き こども園が好き	つたわる つながる ひびきあう	安心して自分の思いを仕草や言葉など自分なりの方法で表現している	保育者が思いややりたいことを受け止め、安心して生活し好きな遊びを楽しむことで、今までよりも保育者や友達に自分なりの言葉や表情で伝えようとする姿が多く見られる。なかなか表現できない子への関わりの難しさを感じることもあった。	A	A	・遊びがつながっていき、次はもっとこうしてみよう、ということを幼少期にやっていくことは小学校の生活科、総合、探究活動につながるため、素地が大事である。やりたいことがある子、自分の思いをもつている子を小学校でも育てていきたい	一人一人の子どもに丁寧に関わり温かな声かけを意識する。声の大きさにも気をつける。思いを出しにくい子どもに対し表情や状況から思いを察し、思いを安心して出せるように丁寧に関わっていく。
		「もう1回やってみよう」「もっとこううしよう」という思いを実現し遊び姿が見られる	子どもからのやってみたいを取り入れていくことで“もう一回”“もっと”という姿に繋がり、遊んでいる中でもっとこうしよう！の声がよく聞かれるようになった。子どもの動きを見逃さず環境を整えることで遊びを実現次に繋がっている。なかにはあまり考えない遊び子もいる。	B	B	子どものやってみたいを受け止めすぐ実現できる環境の工夫や保育改善をしていく。子どもの遊びから予想される様々な姿を想定し、予め素材や道具を準備しておく。遊びのとおき方を工夫していく。	
		保育者や友だちと関わりながら、好きな遊びを楽しむ	やりたい遊びを見つけて楽しむ姿が見られ、好きな遊びを通して友達や保育者と繋がり楽しむ姿も多くあった。子ども同士で思いを伝えながら遊び姿が増えた。クラスにとらわれず、違うクラスでも好きな保育者、友だちと遊び姿もあった。	A	A	ダンス散歩などの異年齢交流を意識して行なっていく、様々な友達と関わるようにしていく。保育者が友達との関わりを深める仲介役になり好きな遊びを繰り返し楽しめるようにしていく。	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	細項目	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験などの違いを十分に把握理解し、それに応じた援助や言葉かけを行っている	保育者が一人一人の発達や経験、その時の状況などを理解し、援助や言葉かけの工夫を行うことができている。個々の発達について保育者間で共有し、それに合わせて関わっている。	A	A	・支援の必要な子に対して子どもが怒らないで接しているのを見てすごいなと思った。支援の子に対して周囲の子どもの関わりがよいのは、職員がよいモデルになっているからだろう	今後も一人一人の見取りをし適切な関わりをしていく。子どもの発達状況や関わりなどについて職員間で共有する。自尊心が高まるような声かけの学び合いをしていく。
	(2)一日の生活の連續性及びリズムの多様性への配慮	在園時間の違う子どもに配慮し、安心して園生活が過ごせるように、生活の流れを作り、遊びの環境を工夫している	子どもたちが安心して自分から次への行動へと移れるように生活リズムを作っていた。長時間保育でも、安心して楽しく過ごせるように年齢ごとに過ごす時間を配慮し玩具を入れ替えたり、戸外遊びをする時間を作ったりした。	A	A	・多様性が求められている時代なので、いろいろな子がいて、いろいろな遊びをしているのがいい	発達や様子に合わせておもちゃ入れ替えを行なっていく。早番遅番でも遊びを十分楽しめるように、通常保育と違う玩具を順に出すなどの工夫をする。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達が自分から遊びだせる環境を工夫し、地域の公園などを利用しながら季節を感じられるようにしている	子どもの姿に合わせ環境や廃材を自分で遊びすぐに遊び出せるように手に取りやすく試しやすいように用意した。定期的に公園や園周辺の散歩を計画実施したことで季節の移り変わりや自然を感じることができ、季節の自然物と一緒に集めて園でも遊べるようにした。	B	B	・子どもがためらっていることに対して無理強いすることなく、子どもにも保護者にも丁寧なやり取りをしてもらっている	今後も戸外も室内も遊び出しの環境を準備し、子どもが選ぶ、決定する環境を増やしていく。季節、自然物の遊びの取り入れをもつとするために、ある程度保育者側でも掲示や紹介、準備をしていく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練や不審者訓練、交通安全指導、ヒヤリハット対策を通して、子どもや職員が危険に気づき行動する力、対応する力を身につける	毎月訓練では職員間で連携し、訓練後は課題の検討と改善策を話し合った。保育者の危機管理能力、子どもの意識や行動が改善され、予告無しの訓練で臨機応変に対応する力がついてきた。減災教育の学びから園の避難訓練の見直しを行った。	A	A	・日本の伝統行事などのイベントを上手に体験させてくれている	減災教育での学びを避難訓練や保育に取り入れ、子ども・職員の理解につなげていく。災害や事故対策の情報を更新し、全体で共有していく。今後も予告無しの訓練を増やし対応力を向上させていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	自分たちで作った野菜を利用してのクッキングを行ったり、食育活動の様子を写真やお便りで知らせたりして、親子で食や健康に关心が持てるようにする	各クラス栽培や食育の日の話をすることで食に興味をもったり、食べることを喜んだりする姿があった。保護者へも写真掲示をすることで分かりやすく発信することができた。栽培、収穫した野菜のクッキングの計画性が足りなかった。	B	B	・子どもたちの笑顔がいい。先生たちもやる気をもってやっているところがいい。減災教育なども行き安心を守っている。見えないところで支えている	幼稚園ではクッキングを年間計画に2回入れ、収穫からクッキングまでを計画的に行なう。調理員との連携をさらに深め、年齢に合ったものや工夫したものを取り入れ、クッキングが身近なものとなるようにしていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	加配担当者会議を行うとともに、全職員で情報共有し、研修の学びを職員で共有し、一人ひとりに合った支援を考え、園全体で支援していく	定期的に加配担当者会議でケース討議をし支援方法を話し合った。ブリーフィングも参加することで同じ支援を職員ができるようにし、職員会議で情報を共有した。個に合わせた支援をしてきたことで集団で活動する姿が見られてきている。	B	A	来年度に向け、乳児保育者も会議に参加し、2歳児の様子、支援について話し合う。また、園内研修で、子どもとの実例を交えて話し合い、一貫した支援を行えるようにしていく。	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自らの分掌に責任を持ち、必要に応じて役割分担をし、乳児・幼児で連携をとりながら園運営を進めていく	前年度の成果課題を参考に改善策を考えより良く出来るよう意識して進めた。各分掌で役割分担し定期的に話し合い業務を実行し、乳児・幼児で連携を取りながら園運営を進めることができた。しかしこまだ互いに見えてくい部分もある。	B	B	見通しをもち早めに計画していく。今後も分掌内で話し合いをし、一人一人が意識を持ち責任を持って取り組む。必要に応じて園全体で取り組んでいく。協力して取り組む意識を常に持つ。	
6 研修	(1)研修体制の充実	「もう1回やりたい」「もっとこうしたい」という思いがつながるよう、朝の環境作りや片付けの工夫、外と中での遊びのつながりを意識した方法を考え実践する	朝の環境作りをすることで子どもがワクワクして遊びだす姿や、今日の遊びの続きをしたいと思えるような目に入る片付け方をしたことで遊びが翌日へと繋がった。各クラス子どもの発達や遊びの姿、つぶやきから興味に合った遊びの環境の工夫や改善を行なったがクラスによって差があった。	B	B	定期的に他クラスの保育へのアドバイスを行なう機会を作っていく。子どもの発達や興味、「こうしたい」「もう1回やりたい」の思いを見取り、すぐに環境に繋げる。	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	SDGs 3に取り組み、保育の中に取り入れ、身近に感じられるようにしていく。ユニバーサルデザインを取り入れ子どもも大人も過ごしやすい環境作りを行う	月案に入っているSDGs 3つの目標について、集いにしたので子どもたちに身近だった。古紙ボックスやゴミ箱のふた等、そこにあるのが定着している半面、あるのがあたりまえになり意識が薄くなる面もある。	A	A	そのつど声をかける。集いは年3回実施して子どもが心を開いてるようにする。月案に入っているもののがいいと思うが、他にもわかりやすそうなものがあれば実施したい。	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での活動、子どもの姿、経営方針を説明会や懇談会で伝え、写真などもコドモンを有効に活用しながら知らせていく	保護者にわかりやすいように保育内容を発信し、懇談会ではスライドを用いて子どもの成長を伝えた。毎日のボードや行事の際に写真を入れる工夫をし、送迎時に丁寧に伝えた。写真を取り入れたお便りなどコドモンを活用しながら発信した。	B	A	コドモンの活用と並行して口頭などで丁寧な対応に心掛けていく。コドモンだけにならず、活動の様子をボードでも発信し、親子で一緒に見ながら話す機会ができるようにしていく。	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流を計画的に行なながら、情報交換や連携を図り、学校や園の公開授業や公開保育の参加を積極的に行っていく	近隣園の公開保育に参加し、環境構成を学び自園に活かした。小学校教諭が公開保育に参加し、情報共有をしたり、園内行事に協力して頂いたりして、情報交換だけでなく交流を深められている。	A	A	継続して、近隣園、近隣校との交流を実施する。小学校教諭と情報共有や連携を早くから計画していく。	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンやS型ディサービス訪問の年間計画を作成する。おしゃべりサロンを地域に知ってもらうための工夫をし子育て支援を行なうと共にこども園の魅力を発信していく	おしゃべりサロンの年間計画を地域に掲示することで、参加してくれる親子も多く交流の場となった。園児が歌ったり、踊ったりして様子も発信できた。今年度はディサービス訪問を定期的に行い、地域のお年寄りと交流することができた。	A	A	引き続き年間計画を地域に掲示し発信する。乳児の戸外遊びに混ざって遊ぶ企画をし、乳児クラスの魅力を伝えれる。またどのようなことをやっているか、時々保護者に発信する。	